# 2023 年度第 3 回幹事会/第 1 回評議委員会議事録

日時：2023 年 9 月 5 日（火）　　幹事会：13 時 00 分～14 時 00 分
　　評議委員会：14 時 00 分～16 時 00 分

場所：熊本大学 生命資源研究・支援センター遺伝子実験施設6階講義室（602）及び WEB 会議
出席者：（会長） 岩﨑博史、（幹事）野々村賢一、平田たつみ、颯田葉子、菱田卓、新屋みのり、北野潤、荒木弘之、桝屋啓志、沖昌也、Jeffrey Fawcett、荒木喜美（兼 第 95 回大会委員長）、佐々木真理子、杉本道彦、村山泰斗、一柳健司、大野みずき、高橋文、藤泰子、古郡麻子、遠藤俊徳、村井耕二、中別府雄作、相澤康則、入江直樹、加納純子、二階堂雅人、荒木正健(第 95 回大会委員)、石井浩二郎（第 96 回大会委員長）（順不同、敬称略）、
（評議委員）：角谷徹仁、片山勉、河邊昭、小林武彦、佐渡敬、篠原美紀、那須田周平、深川竜郎、伊藤秀臣、石川隆二、鳥羽大陽、松浦彰、近藤るみ、野澤昌文、郷康広、菅澤薫、加藤太陽、長岐清孝、石黒啓一郎、柴田弘紀（順不同、敬称略）、飯田愛（事務局）

1.岩﨑会長から挨拶があった。
2.報告事項
2.1 岩﨑会長から第 94 回大会以降の物故会員の報告があった。
名誉会員：坂口文吾会員、大澤省三会員、由良隆会員、石川辰夫会員、Nei Masatoshi 会員
会員：石濱明会員、大坪久子会員
2.2 国内庶務幹事報告
平田幹事から日本遺伝学会が関係している学術賞・研究助成として、東レ科学技術賞、東レ科学技術研究助成金、内藤記念講演助成金、山田科学振興財団研究援助に推薦し、内藤記念講演助成金(1件)及び山田科学振興財団研究援助 (2件)の合計3件が採択されたとの報告があった。
2.3 渉外庶務幹事報告
菱田幹事から生物科学学会連合に「日本学生支援機構の奨学金貸与期間についての要望書」を遺伝学会から提出したこと、ならびに、生物教育用語調査についての説明があった。また次回の遺伝学談話会(岡山開催)の準備状況の説明があった。新屋幹事から自然史学会連合についての報告があった。
2.4 会計幹事報告
北野幹事から 2023 年度の会員数が微増したこと、ならびに科研費（国際情報発信強化 B）が 2024 年度まで支給されることが報告された。
2.5 編集幹事報告
桝屋幹事から GGS 編集長の交代や managing editor の増強など、編集の新体制について説明があった。論文発行状況、投稿状況について、投稿数が非常に増えて対応が大変であること、そのために非会員の APC を値上げしたことについて等、ITA 変更の経緯の説明があった。また、GGS を issue にまとめることをやめて、1報ずつ論文を速やかに発行するように改める予定であることも報告された。今後の課題として投稿料、製作費、ホームページ、ロゴについて話し合われた。
2.6 企画・集会幹事報告
荒木喜大会委員長から第 95 回大会の準備状況について報告があった。
沖幹事から熊本大会における BP 賞の投票方法、審査方法、総会での表彰、プレナリーの開催日について説明があった。
Jeff 幹事から ISEGB 2023 に日本から学生を派遣し、遺伝学会熊本大会に 2 名の台湾の学生を招聘する予定であることが報告された。
2.7 将来計画幹事報告
佐々木幹事から男女共同参画幹事と連携して参加した「女子中高生夏の学校 2023」への参加報告があった。また 2020 年に実施した遺伝学会アンケートをもとに活動を計画していることが説明された。
＊別紙1_参照
2.8 男女共同参画推進担当報告
一柳幹事から男女共同参画学協会連絡会の若手雇用問題アンケート解析への参画や、熊本大会における男女共同参加フォーラムの開催について説明があった。Slack Pro の費用についての説明や、遺伝

学会会員の著作物提供への感謝の意も述べられた。将来計画委員会と協力して「女子中高生夏の学校2023」に参加したことについても報告があった
2.9 遺伝学普及・教育担当報告
村井幹事から遺伝学会大会のポスター発表においては、学部生と博士課程（前期）の学生のみ発表できることを確認し、YBP 賞規定（内規）についても確認があった。
岩﨑会長から、2023 年度日本遺伝学会賞選考委員会について、今年度は木原賞 1 件、奨励賞 3 件の推薦があり、以下の会員に授与が決定したことが報告された。
木原賞：柴田武彦会員
奨励賞：加藤太陽会員、中川草会員、野澤昌文会員
2.10 シニア活性化
池村幹事に代わり岩﨑会長から熊本大会においてシニアランチョンワークショップを開催予定であること、また GGS Brief Report への投稿勧誘と審査について報告があった。第 4 回木村資生記念進化学セミナーでの遺伝学若手の会企画の支援や、かずさDNA 研究所生命科学講座でのオンデマンド講義を通して一般への遺伝学普及活動を行うことについても説明された。
2.11 国際連携幹事
二階堂幹事から GSA と合同開催の Asia-Pacific Genetics Seminar Series について第 2 回から 5 回までの報告及び第 6 回の開催概要が説明された。また、国際遺伝学会（メルボルン）へ参加した感想について報告があった。
2.12 広報担当、ホームページ編集報告
遠藤幹事から物故会員についての追悼文の依頼状況について説明があり、学会ホームページの改定方針について説明があり承認された。
2.13 石井大会委員長から第 96 回大会（高知）の準備状況、科研費交付等の報告があった。
日程：2024 年 9 月 4 日（水）～7 日（土）（最終日は市民公開講座）
会場：高知工科大学永国寺キャンパス
3.協議事項
2022 年度　決算について説明があり承認された。
2024 年度　予算案ついて説明があり承認された。
BP 賞選考内規について説明があり承認された。＊別紙 2_参照
第 97 回大会の開催地について承認された。
今後のナイトゼミナールの開催方法に関して意見交換を行った。
国際遺伝学連携（IGF）への再加入について今後継続議論することになった。

**別紙1.**

「女子中高生夏の学校 2023 ～科学・技術・人との出会い～」参加レポート

国立遺伝学研究所　佐々木　真理子

2023 年 8 月 5 日～7 日に、埼玉県の国立女性教育会館で「女子中高生夏の学校 2023」が対面で開催されました。東京工業大学の藤泰子さん、国立遺伝学研究所の市原沙也さん、株式会社 Gakken の庄司日和さんと佐々木が、二日目の 8 月 6 日に参加し、ポスター発表を行いました。多くの女子中高生がポスターを聞きにきてくれ、遺伝学とはどういう学問なのか、大学ではどのような学部に進めば遺伝学を学べるのか、遺伝学を学んだらどういう謎が解決できるのかについて説明し、日本遺伝学会で活躍する女性のロールモデルについても紹介しました。

ポスターを聞きにきてくれた生徒たちは、遺伝学について疑問に思っていることを質問してくれたり、進路について悩んでいることを相談してくれたりもしました。また、「遺伝学を学んだら研究者以外ではどういう仕事につけるのか想像ができない」、「研究者って一体何をしているのかわからない」など率直な意見も聞くことができ、中高生たちの理系進学を勧める際には、そういう基本的なところを紹介して、研究職に親しみをもってもらうことも大切なのではないかと感じました。

また、２冊と数量限定ではありましたが、遺伝学会会員の岩崎博史先生（東工大）の著作「池上彰が聞いてわかった生命のしくみ 東工大で生命科学を学ぶ」のサイン入り本（池上彰先生、大隈良典先生のサインもあり）を希望者に配布しました。これを読んでさらに遺伝学や生命科学への興味が深まることを期待しています。

別紙2.

# BP 賞選考内規

## 1. 概要

Best Papers(BP)賞の選考には BP 賞選考委員が当たる。選考委員会は、以下の規定による BP 賞投票権者の投票結果を集計し、その得票数に従って、BP 賞受賞講演を選考する。選考結果は、オブザーバーとして選考委員会に出席する遺伝学会会長と大会準備委員長の承認を経て、正式なものとされる。

## 2. BP 賞投票権者

評議委員会メンバー(会長、幹事、役員、評議委員)、編集委員と編集顧問および各セクションの座長を投票権者とする。BP 賞選考委員に任命されても投票権は失わないものとする。

## 3. BP 賞選考委員

BP 賞選考委員は、本部企画として企画・集会幹事が発議し、毎年幹事会内に設置する。委員は、学会長と大会準備委員長の承諾を得て企画・集会幹事が選考し、幹事会の承認をもって正式なものとする。委員会の構成は通常以下のようなものとする。

1)各幹事と大会準備委員会メンバー若干名(プログラム委員が望ましい)
2)必要な場合は、評議委員や編集委員からも委員を選考することができる。
3)学会長と大会準備委員長はオブザーバーとする。
4)委員長は, 会長と大会準備委員長の承認を得て、委員のなかから選ばれる。

## 4. 投票方法

1) Google form を使って行う。投票は記名投票とする。
2)**評議委員会メンバー・編集委員・編集顧問・座長の投票** :聴講した講演にはチェックを入れる。その中で、特に優れた講演、優れた講演にチェックを入れる。特に優れた講演、優れた講演は、合わせて 2 割程度とする。なお、投票者自身が演者あるいは共著者になっている講演は、「共著者による発表」にチェックを入れる。
3)**重複推薦**:評議委員会メンバー・編集委員・編集顧問が座長となった場合は、座長の投票に準拠する。

## 5. 集計と選考の方法

1) 投票終了後、直ちに集計する。
2) **選考方法**:一般投票による得票率順を明らかにした上で、分野別のバランスを考慮し、選考する。この得票率をもとに BP 賞受賞候補講演を選考する。
3) **BP 賞受賞講演の承認**:2)の結果を、オブザーバーとして参加している会長と大会準備委員長に諮り、その承認を経て正式な BP 賞受賞候補講演とする。
4)**BP 賞受賞講演数**:全講演の1割程度を目安に選考するが、分野間のバランスなどを考慮し、ある程度の増減はできるものとする。

## 6. 選考の公正および選考委員・オブザーバーの辞任

1) 集計が終わった段階で、選考委員およびオブザーバー自身が共同発表者となっている講演が、受賞講演予定数の3倍以内の順位にノミネートされていた場合、直ちに選考委員およびオブザーバーを辞任する。この処置により、選考委員が激減する場合は、選考委員会は新たな委員を招聘することが出来るものとする。

2) なお、辞任した選考委員およびオブザーバーに関しては、その氏名をそれ以後のサーキュラー、学会ホームページ、大会ホームページ等からは削除する。
3) こうした処置により、選考委員やオブザーバーになっていても、BP 賞の受賞チャンスを失うことがないようにする。

**7. BP 賞の発表**

1) 選考委員会で正式決定した BP 賞候補の筆頭講演者には、その旨通知するとともに原稿を依頼する。
2) 期限内に原稿を受理した BP 賞候補のみを正式な BP 賞と認め、その筆頭講演者に講演者全員の名前を記した賞状を発送するとともに、受理した原稿を本会記事やサーキュラー、学会ホームページ、あるいは大会ホームページ等に掲載する。
3) 期限内に原稿を受理できなかった BP 賞候補に関しては、受賞を辞退したと見なし、 BP 賞のリストから削除する。

**8. 雑則**

この内規に定めるもののほか、この内規の施行については必要な事項は、日本遺伝学会幹事会・評議委員会の合意をもって定める。

**附則**

この内規は、平成 19 年度遺伝学会岡山大会から施行する。
2022 年 9 月 16 日　一部改正(7.BP 賞の発表の 2))
2023 年 9 月 5 日　一部改定

2023 年 9 月 5 日
Genes & Genetic Systems
編集委員長
桝屋　啓志

2022 年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議議事概要

開催日時：2023 年 9 月 5 日（火）16 時 00 分～17 時 30 分

会議場所：熊本大学 生命資源研究・支援センター遺伝子実験施設 6 階講義室（602）
及び WEB 会議

出席者：桝屋啓志、荒木弘之、岩崎博史、西原秀典、田嶋敦、石井浩二郎、中川拓郎、Jeffrey Fawcett、藤本明洋、一柳健司、伊藤雅信、角谷徹仁、要匡、小林武彦、楠見淳子、村井耕二、中岡博史、那須田周平、二階堂雅人、仁木宏典、野々村賢一、颯田葉子、澤村京一、高橋文、田中秀逸、鵜木元香、五條堀孝、真木智子（編集局長）、（順不同、敬称略）、飯田愛（事務局）

**議題**

1. 新体制について（桝屋）
2. 編集委員、編集顧問について（桝屋）
3. 昨年度報告（桝屋）
4. 報告 APC 改訂、Information to Authors 改訂について（メール審議済み：桝屋）
5. 報告 GGS ホームページのリニューアルについて（メール審議済み：桝屋）
6. 協議 GGS PRIZE について（中川）
7. 協議 学会誌作成作業の見直し等について（桝屋）
8. 協議 GGS ロゴ改訂について

――――――

1. [報告] 2022 新体制について（桝屋）
   （ア）Editor-in-Chief（編集長）：桝屋啓志（理研 BRC）
   （イ）Vice Editor-in-Chief（副編集長）：荒木弘之（遺伝研）
   （ウ）Managing Editor：西原秀典（近大）、田嶋敦（金沢大）
   （エ）Reviews Editor: 石井浩二郎（高知工科大）
   （オ）GGS Prize Editor: 中川拓郎（阪大）

2. [報告] 2021 年度報告
   （ア）論文発行状況
   ① Volume 98（2023）

| 号 | 掲載論文数 | Review | Full | Short | Other | 公開日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5 | 1 | 5 | 0 | 0 | 2023 年 02 月 01 日 |
| 2 | 5 | 0 | 3 | 2 | 0 | （近日公開予定） |
| 3 | 4 | 3 | 0 | 0 | 1 | （近日公開予定） |

   ② Volume 97 (2022)

| 号 | 掲載論文数 | Review | Full | Short | Other | 公開日 |
|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2022 年 02 月 01 日 |
| 2 | 4 | 0 | 3 | 1 | 0 | 2022 年 04 月 01 日 |
| 3 | 5 | 0 | 4 | 0 | 1 | 2022 年 06 月 01 日 |
| 4 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 | 2022 年 08 月 01 日 |
| 5 | 5 | 0 | 3 | 1 | 1 | 2022 年 10 月 01 日 |
| 6 | 5 | 1 | 4 | 0 | 0 | 2022 年 12 月 01 日 |

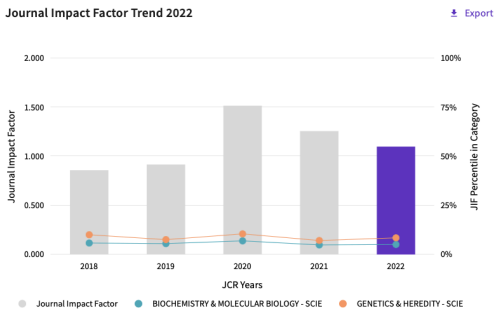
（イ）論文投稿状況（8 月 31 日現在）

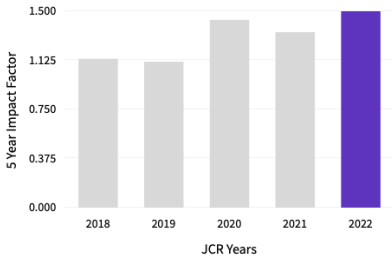
| | 2022. 9. 1-2023. 8. 15 | 2021. 9. 1-2022. 8. 31 | 2020. 9. 1-2021. 8. 31 |
|---|---|---|---|
| 総投稿論文数 | 344 | 169 | 100 |
| 採択 | 24 | 26 | 32 |
| 不採択 | 307 | 139 | 60 |
| 査読中 | 5 | 0 | 0 |
| 取下げ等その他 | 8 | 4 | 8 |
| 採択率 | 7. 3%(24/(24+307)) | 15. 8%(26/(26+139)) | 34. 8%(32/64+32)) |

投稿数激増に関して「協議事項 8：投稿数激増への対処について」において協議した。

（ウ）Impact factor (Web of Science)

| | IF | 5-year IF |
|---|---|---|
| 2022 年 | 1.1 | 1.5 |
| 2021 年 | 1.258 | 1.340 |
| 2020 年 | 1.517 | 1.434 |
| 2019 年 | 0.917 | 1.114 |
| 2018 年 | 0.859 | 1.137 |
| 2017 年 | 0.913 | 1.024 |




参考　(2022 年)

Plant and Cell Physiology　（PCP）誌

Impact Factor　4.9

5 year Impact Factor　5.7

Genes to Cells　2.1

DNA Research　4.1

J. Plant Research　2.8

J. Biochem　2.1

Cell Structure and Function 1.5

3. ［報告］編集委員、編集顧問について（桝屋）

（ア）新規委員（Editor）：藤本明洋（東大）、中岡博史（佐々木研）、鵜木元香（東大）

（イ）新規海外 Editor の承認について：

今回の大会で招聘するオーストラリアの２名の研究者に GGS の Editor に加わっていただきたい。

① Lee Ann Rollins (Conservation Genetics)
所属：Evolution & Ecology Research Centre, School of Biological, Earth and Environmental Sciences, University of New South Wales, Sydney, NSW 2052, Australia.
HP：https://research.unsw.edu.au/people/associate-professor-lee-ann-rollins
備考：Director of the Evolution & Ecology Research Centre at UNSW and the Deputy President of Academic Board at UNSW.

② Frank Grutzner (Comparative Genome Biology)
所属：School of Biological Sciences, The University of Adelaide, Adelaide, SA, Australia
HP: https://researchers.adelaide.edu.au/profile/frank.grutzner

（ウ）新規編集顧問：権藤洋一
（エ）今年度一杯で編集顧問ご辞退：品川日出夫

4. ［報告］APC 改訂、Information to Authors 改訂について（メール審議済み：桝屋）
新 ITA: https://gsj3.org/ggs/instructions_for.html
改訂点：0）Brief Reports の記載 1）非会員 APC を 20 万円に値上げ 2）手数料の投稿者負担の明記、3）新編集長への変更
5/22 にメール審議にて承認。改訂済み。

5. ［報告］ Brief Report について（平野）
この 1 年間で，Brief Report への投稿が 5 報あり，すべて，シニア会でハンドル，査読しました。修正などをしていただき，5 報すべてアクセプトになり，そのうちいくつかはすでに GGS に掲載されています。また，呼びかけの中から，GGS Full paper への投稿があり，これも最近アクセプトされました。今後も，シニア会として Brief Report への投稿呼びかけを行っていく予定です。

6. ［報告］ J-STAGE Data について
オープンサイエンスのためのデータ置き場。GGS 著者がデータを置くことができる。
https://jstagedata.jst.go.jp
https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_20200828_Seminar05.pdf
2019 年に利用申し込み済み。未設定。今年度行っている検討が落ち着いてから取り組む

7. [協議] GGS PRIZE 受賞論文選考
中川委員より 5 編を最終候補とした経緯及び論文の内容の説明があった。審議の結果、3 編を 2023 年度 GGS prize と決定した。
●Title
Changed life course upon defective replication of ribosomal RNA genes
Authors
Mei Hattori, Chihiro Horigome, Théo Aspert, Gilles Charvin, Takehiko Kobayashi*
Published in Genes & Genetic Systems 2022,97(6):285-295.

●Title
Euchromatin factors HULC and Set1C affect heterochromatin organization and mating-type switching in fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*
Authors
Alfredo Esquivel-Chávez, Takahisa Maki, Hideo Tsubouchi, Testuya Handa, Hiroshi Kimura, James E. Haber, Geneviève Thon, Hiroshi Iwasaki*
Published in Genes & Genetic Systems 2022,97(3):123-138.

●Title
Identification of genes regulating stimulus-dependent synaptic assembly in *Drosophila* using an automated synapse quantification system.
Authors
Jiro Osaka, Haruka Yasuda, Yusuke Watanuki, Yuya Kato, Yohei Nitta, Atsushi Sugie, Makoto Sato, Takashi Suzuki. *
Published in Genes & Genetic Systems 2022,97(6):297-309.

8. ［報告・協議］GGS ホームページのリニューアルについて（メール審議済み：桝屋）
GGS 最新論文情報の自動掲載、デザイン変更、アピール文章のスペース確保、費用：税込 223,800＋年間保守税込 4 万、発注先：レタープレス
8/4 にメール審議にて承認。改訂済み。

ホームページに掲載する GGS のアピールポイントについてご下記の意見があった。
- オープンアクセス
- 高品質のレビューあり雑誌
- 短期間での掲載、EOA あり
- 長い歴史
- APC 価格について
- Editorial 体制について
- PubMed インデックス、DOAJ、Scoupus
- 広い遺伝学の分野を扱う

9. ［協議］投稿数激増への対処について
上記 2021 年度報告にある通り、2022 年の投稿数が 300 を超えており、かつ、採択数増加につながっていない。非会員 APC を 20 万円に値上げしたことも効果がない模様。何か解決策はないか？
（ア）プレスクリーニングの手間が大きくなっている場合、そのプロセスを効率化する方法（自動化ツール利用、明確な投稿ガイドライン、外部サービス利用、投稿料導入、エディトリアルボード強化、投稿者へのフィードバック等）考える必要がある。

（イ）投稿料導入に関する課題
① 投稿システム Editorial Manager が投稿料支払いに対応するかどうか
1. 社外のオンライン決済システム等との連携機能はない
2. 投稿時に投稿料金確認のチェック項目を作成し、著者側で回答してもらうことは可能。

（ア）ただ、その場合でも「未入金の場合は投稿できない」のような自動設定は難しい。遺伝学会側で確認が必要。
①　確認の方法は、いくつかある。
②　追加投稿情報（著者への質問項目）とフラグ機能の連携機能概要：
③　有料であれば外部サービス（RightsLink）との連携機能がある

3.　管理会社アトラスで Web 会議による詳細打ち合わせも可能。

②　その他投稿料導入に関する潜在的な問題点（アクセスの制限、公平性、品質と料金の非相関や逆効果の可能性、信頼性の課題、ダイバーシティの課題、倫理的課題、競合他誌との関係の問題）等を検討する必要がある。

③　下記の内容の協議があった。

1.　9/5 幹事会での意見
（ア）フォーマットチェック、生データ付与等
（イ）コミュニケーター制
（ウ）Managing Editor の役割を担うスタッフ雇用する。
（エ）投稿料
①　投稿料免除のルールも明確化する。会員は免除とした方が良い
②　医学系、北米神経科学会は投稿料を取っているので情報を集めるのが良い。

2.　9/5 編集会議での意見
（ア）ファーストスクリーニング体制の増強を検討する
Managing Edior の増強　あるいは、ファーストスクリーニングスタッフの増強を検討する。
（イ）投稿料について、他の動向等も見ながら検討する。
（ウ）その後の議論で、JN 誌は投稿料をやめたとの情報があり、時代に逆行しているかもしれないとの情報があった。

10. [協議] GGS ロゴ改訂について
GGS のロゴが GSA と酷似しているため、改訂を行う。
（参考：現ロゴは、2019 年に改訂）

新ロゴ提案

課題：

- 意匠の確認
  - “logo DNA S” で Google 画像検索をしても結果に類似のものは見あたらない。また当該画像での検索結果でも、類似画像は見あたらなかった。
  - 特許庁 HP の商標検索で、gene: 2635 件、DNA: 722 件、genom:227 件、遺伝: 84 件、二重螺旋/らせん: 0 件、で類似したものは見つからない
  - ロゴの商標登録について
    - 分子生物学会 Genes to Cells は商標登録を行なった。上記特許庁検索では、遺伝研や KEGG のロゴが見つかった。理研は見つからなかった。
    - コスト：印紙代：1 万 7,200 円（5 年登録の場合)、弁理士手数料：1 万円～5 万円が一般的（Google）
    - 商標登録の有効性

  - 協議結果：
    - 上記新ロゴで進める
    - 商標登録を検討する。

11. [協議] 学会誌作成作業の見直しに関する準備活動について（桝屋）
現在契約している業者の DTP 組版費用が大きすぎるかもしれない（年間約 400 万円)。現状の作業にはホームページ更新、原稿料オンライン決済等が含まれ、その他作業範囲も不明瞭なため、整理し、仕様書を作成して、複数業者に見積もり合わせを行う予定。その結果をもって、メール審議等で承認を得て進める。

12. その他、下記の議論があった。
（ア）Manuscript 番号は公開日順とする
（イ）GGS 論文の citation のアピールを行う。
（ウ）学会員の投稿を励行する。

**日本遺伝学会第95回大会総会議事録**

日時：2023年9月8日（金）14時00分～14時35分

場所：くまもと県民交流館パレア10F A会場　パレアホール

出席者　岩﨑博史会長、幹事他150名

1. 議長選出

   議長に野田大地会員（熊本大学）、今坂舞会員（兵庫医科大学）が選出された。

2. 荒木喜大会委員長挨拶

3. 岩﨑日本遺伝学会会長挨拶並びに報告（2023年度第3回幹事会/第1回評議委員会議事録参照）

4. 議事

   ① 2022年度会計決算について

   北野会計幹事に代わり岩﨑会長から総会資料にもとづき説明がされた。また、仁木宏典会計監査から、事前に仁木会員、久保会員が伝票領収書等を確認し、5月24日にWEBにて会計監査を実施した結果、2022年度の会計は適正に行われている旨の報告があり、承認された。

   ② 2024年度予算案について

   同じく岩﨑会長から、総会資料にもとづき説明があり、予算通り承認された。

   ③ 第97回大会について

   岩﨑会長から、第 97 回大会が前日の評議委員会において神戸で開催が認められていると報告され、承認された。

5. 第95回大会Young Best Poster(YBP)賞受賞者

   井上瑞貴会員、采女優太会員、尾脇あいみ会員、下向結貴会員、諏訪部優菜会員
   八木優美香会員、米盛匠海会員が YBP 賞を受賞したと発表された。

   第95回大会Best Poster(BP)賞受賞候補者

   安藤大翔会員、小川佳孝会員、風間裕介会員、加藤雄大会員、神崎ちひろ会員、栗田凌会員、黒川裕美子会員、島田龍輝会員、高橋文会員、武市将義会員、茶谷悠平会員、西原秀典会員、西村香里会員、森秀世会員、安田武嗣会員がBP賞受賞候補者として発表された。

6. 第 96 回大会委員長挨拶として、石井次期大会委員長より第 96 回大会（高知）は令和 6 年 9 月 4 日(水)-7 日(金)を高知工科大学永国寺キャンパスにて開催予定と報告された。(9 月 8 日（土）の公開市民講座は高知県立牧野植物園にて開催）

**日本遺伝学会木原賞、奨励賞授与式記録**

総会終了後、木原賞受賞者（柴田武彦会員）と奨励賞受賞者（加藤太陽会員、中川草会員、野澤昌文会員）が表彰された。授賞式終了後に木原賞、奨励賞受賞講演が行われた。